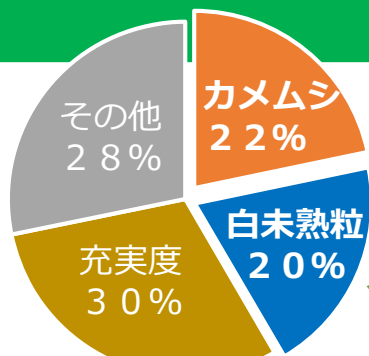


水稻の夏期高温対策



等級低下要因

農産物検査における格落理由の約4割が**カメムシ**と**白未熟粒**が占めています。（大分県R4～6平均）等級が下がると収入にも大きな影響が出ます。今からできる対策をしっかりと行いましょう！

カメムシ対策

高温時はカメムシの発生量が増加し、被害を受けると斑点米を生じます。



【防除のタイミング(液剤の場合)】 **農薬は裏面参考**

- ・**穂揃期**とその**7～10日後**の2回散布が基本
- ・イネカメムシがいる場合は**出穂直後**に1回目を散布



※カメムシは県内全域で発生が見られるため、**防除は必須**です
※出穂前後の畦畔草刈りはカメムシを水田に誘導するため避けましょう

白未熟粒対策

白未熟粒・・・出穂期以降の猛暑や日照不足により米が白く濁る現象



出穂中は深水を保ち、**出穂期以降は間断灌水**を行い、根の活力維持に努めましょう！

間断灌水のイメージ



※出穂後が高温（最高気温35度以上）となる場合は、**夜間に冷たい水を入水**し田の温度を下げましょう！

▶ 次年度栽培のポイント

- ・猛暑に強い品種「なつほのか」「つや姫」「にこまる」への転換
- ・籾数が多すぎると品質低下しやすいため**中干し**を徹底する

大分県では、水稻栽培に関する**情報ポータルサイト**を開設しました。

栽培に役立つ情報を掲載しているので、ぜひご覧ください。

🔍「大分県 水稻ポータルサイト」で検索！



水稻の病害虫対策（トビイロウンカ・紋枯病）

トビイロウンカとは

- ・日本では越冬できず、主に6～7月の梅雨期に下層ジェット気流に乗って中国大陸南西部から成虫が飛来する。
- ・水稻で増殖し、**雌の短翅型成虫**が多くなると急激に増える。

トビイロウンカの発生パターン

1世代のサイクル：約30日間

卵期：7日間 幼虫期：14日間

海外から成虫飛来



第1世代幼虫



第2世代幼虫



坪枯れ



↑*防除タイミングのイメージ

*ウンカ類の飛来状況は地域により異なります。
防除タイミングは県の注意報等を参考にしてください。

6月 移植 | 7月 分けつ期 | 8月 出穂 | 9月 | 10月 収穫

カメムシ・ウンカ対策 薬剤例

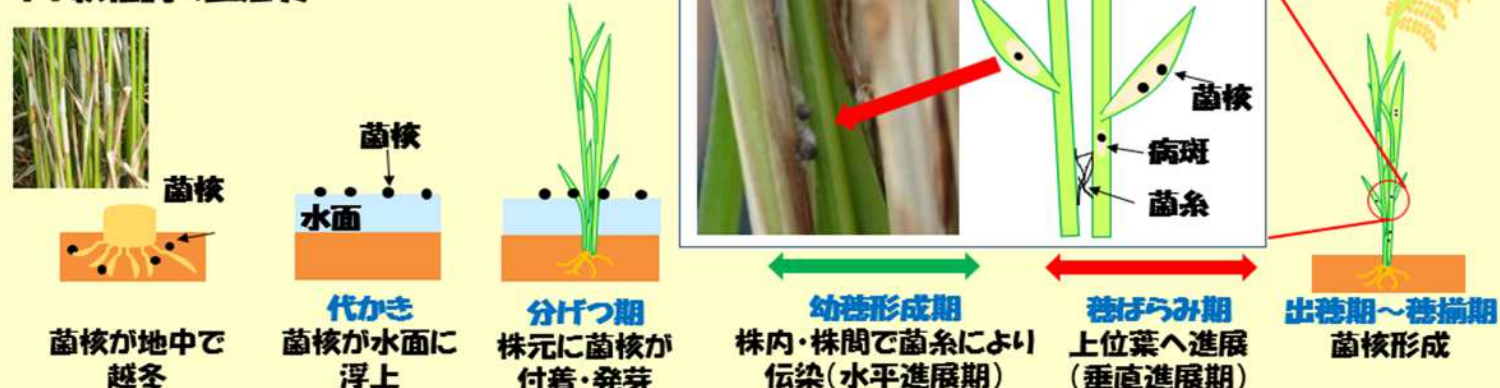
*剤型により使用時期が異なります。
使用前にラベルの一読をお願いします。

農薬名	剤型			使用時期 (収穫前日数)	WCS 飼料用米
	液体製剤	粉	粒・豆粒		
スタークル剤	○	○	○	収穫7日前まで	○
エクシード剤	○	○	—	収穫7日前まで	○
トレボン剤	○	○	—	収穫7～14日前まで*	○

紋枯病について

- ・糸状菌の一種。高温・多湿条件で多発。
- ・前年、紋枯病の発生があった圃場では要注意。

イネ紋枯病の生活史



防除体系のイメージ

苗箱施薬剤による水平進展の抑制 本田防除で垂直進展を抑制

紋枯病対策 薬剤例

農薬名	使用適期	WCS	飼料用米
バリダシン液剤 5	穂ばらみ期	×	○*

*出穂前まで

※特別栽培米については本チラシ掲載の薬剤を使用できない場合がございます。

ご使用の際は地区の暦を確認頂くか、農協職員までお尋ねください。

※薬剤例は一部のため、殺虫殺菌混合剤等については購買店舗までお問合せ下さい。